

委員会名：まちづくり委員会

担当副理事長名：草野 祐介

委員長名：遠藤 勝弘

副委員長名：草野 潤

副委員長名：俣田 辰寛

(委員会の設置背景)

①今までいわきJCが掲げてきた「共創のまちづくり」を継続していくためにも、市民自らがまちづくりに参加しやすい行動しやすい環境を整え、市民を巻き込むことでまちづくりに対し当事者意識の醸成に繋げ広げていく必要があります。

②広域都市であるいわき市は、災害発生時には災害発生地域とその他地域の災害に対する意識の差が生まれやすい傾向があります。自助共助の意識を持ち有事の際能動的に動くためには、災害発生地域に対し対岸の火事とせず常に防災・減災の意識を持ち続けることが必要です。

また、いわきJCは、いわき市社会福祉協議会やいわき市と災害支援協定を締結してから幾多の困難を乗り越えた経験があり災害時に柔軟かつ臨機応変な対応をして行く為にも関係団体との構築してきた関係を継続し強化していくことも必要です。そして、地域から信頼される組織であり続けるために率先して行動できる組織になる必要があります。

(委員会の目的)

①地域全体で共通の目標を持ち、いわきに暮らす人々がまちづくりに参加したくなるシンボルの深化に繋がるまちづくりを目指します。

②これまでの災害時の経験を活かし、有事の際に率先して能動的に行動できる組織運営を目指します。

(事業内容)

■ (事業名 公益社団法人いわき青年会議所2025年度 3月例会)

(事業) 他2

1) 実施に至る背景：起こりうる災害に対し、前年度の運動を引継ぎ、防災・減災に対する組織力、協力体制の継続、強化がいわきJCの課題です。そのため、防災・減災の理解を高め、災害時に能動的な行動を起こす意識を高める必要があります。

2) 目的

対外：各地域の関係者の方々と今まで以上に関係性を深め、災害時にスムーズな対応が出来る環境を作り上げること。

対内：有事の際能動的に動ける組織であるために、会員の防災減災への意識醸成につなげること。

3) 事業内容：第一部では、これまでの各関係団体との協定関係経緯や協定内容について再度確認周知し災害時の連系強化と円滑化への意識醸成に繋がります。第二部では、様々な災害時を想定し、災害組織図を用いて災害が起きた時どのように行動するかディスカッションを行い、発表を行うことで、支援団体と協力できる関係をつくり、防災への意識を高めます。

4) 実施期間： 2025年3月

5) 予算： 50,000円

6) 目標値： アンケート「支援団体と協力し、必要な行動、支援に対して意識醸成に繋がりましたか」の問いに対し、「繋がった」以上が100%  
アンケート「防災減災に対して意識醸成に繋がりましたか」の問に対し、「繋がった」以上が80%以上

7) 得られる効果：防災・減災の意識を高め、有事の際に、支援団体と協力し合える関係を築くことで、メンバーが支援団体とともに災害に主体的な行動を起こすことができます。

8) 実施する際のパートナー：いわき市危機管理部・いわき市社会福祉協議会

■ 2025年度災害組織図

報告

1) 実施に至る背景：いつ起きるか予想のつかない災害に対し、各地域の関係団体と協力し、迅速かつ適切な連携を行うことが有事の際、いわきJCの課題になります。そのため、有事の際迅速かつ適切な行動を行う為に災害組織図は必要です。

2) 目的：有事の際に、各地域の関係団体と協力し、迅速かつ適切な行動を取れる組織となることを目的とします。

3) 事業内容：2025年度に運用できる災害組織図に更新します。3月の例会時に会員に対して、災害組織図を改めて周知し災害組織図の理解の醸成を図ります。災害組織図作成にあたって必要な物資、人的支援などを事前把握し、物資購入先や建設重機リース会社などより具体的に役割を記載することで、初動対応が迅速にできるよう工夫します。

4) 実施期間： 2024年度12月中に決定、2025年度1月から12月

5) 予算： 0円

6) 目標値： いわきJCの会員全員が災害組織図の認知度100% 災害発生時における各部署での安否確認の実施100%

7) 得られる効果：2025年度組織図に対応した災害組織図にアップデートすることで、各自が自分の役割を理解し、迅速な初動対応に繋げることが出来ます。また、協定先と災害時によりスムーズな連携を図ることが出来ます。

8) 実施する際のパートナー：いわき市・いわき市社会福祉協議会

1) 実施に至る背景：過去4回開催され冬のいわきの風物詩になりつつあるイルミエールいわきですが、多くのいわき市民にいわきの魅力として周知発信されていない課題があります。そのため、いわき市民が、能動的に周知発信していくいわきの魅力あるシンボルとしてこの事業を深化させる必要があります。

2) 目的：

対外：まちのシンボルの発展を通じ、いわき市民が周知発信することで、まちづくりに対する意識醸成を目的とします。

対内：本事業に参加することで、まちづくりに根差したJC運動を経験し、まちづくりに対する意識醸成につなげることを目的とします。

3) 事業内容：まちを活性化させるために、これまで連携してきた各団体と協力しながら、イルミエールいわきをいわき市のシンボルとして発展させます。そのためにもより市民が発信していきたくなるような仕組みをつくとともに、いわきの未来を担う多くの学生と交流したまちづくり事業を展開します。広報活動では、昨年度の引継ぎや費用対効果を考慮しながらいわきで暮らす人々に向けてイルミエールいわきを大きく発信します。副事業では音のイベントを開催し、地域間と世代を越えた交流を生み出す機会を創ります。また、地域飲食店と関係性を深めながらイルミエールをさらに発展させることで、この事業がいわきで暮らす人々のまちづくりへの興味関心を高め、地域の活性化に繋がります。

4) 実施期間： 2025年11月下旬～2025年12月下旬

5) 予算： 開催要項 50,000円  
広報 160,000円  
設置計画 5,000,000円点灯式・副事業 3,400,000円 【開催に係る広報費含む】

【低木に飾り付け、シンボリックなフォトスポットを作成予定】

(内訳 LOM拠出：100,000円 協賛金：6,010,000円 補助金：2,500,000円 補助金名：福島県地域創生総合支援事業2回目)

6) 目標値： 対外：アンケート「この事業を通してまちづくりに対し意識醸成に繋がりましたか。」の問いに対し、「繋がった」80%以上  
対内：アンケート「これからもまちづくりに対する事業に参加したいと思いますか。」の問いに対し、「参加したい」以上80%

7) 得られる効果： **いわきの魅力を発信する市民が増え、まちづくり運動への意識醸成に繋がり**、地域の活性化につながります。

また、まちづくり事業を通じて、地域のひとと関わり、組織と地域を引っ張る人財が生まれ、いわきJCの今後の組織運営につながります。

8) 実施する際のパートナー：いわき市・市内高校・湯本温泉観光協会・内郷まちづくり市民会議・小名浜まちづくり市民会議・**四倉まちづくり市民会議**  
・東日本旅客鉄道株式会社・泉商店会・勿来JCOB会・市内学生

委員会名：ひとつづくり委員会

担当副理事長名：佐藤 稔久

委員長名：柏 義男

副委員長名：木村 俊太郎

副委員長名：大滝 真優

(委員会の設置背景)

いわきの明るい未来を築いていくために必要となってくるのが、未来を担う子どもや若者達を地域で活躍する人財へと成長できるような環境です。昨今、デジタルテクノロジーの進歩は目覚ましく、日々社会に変化が起きていますが、現在のいわきにおいてその変化の早さに十分対応できているとは言えず、子どもたち将来に対し幅広い選択肢を与えることができていません。また地方自治について、選挙権年齢が引き下げられたことで意見は伝わりやすくなりましたが、年代別投票率を見ても、若者にとってまだまだ選挙に関心が寄せられていないのが現状です。いわきの未来をより良いものにしていくためには、子どもや若者に対し、論理的思考力や想像力を磨く機会をつくり、自身の未来の選択肢に対し積極的に考えることができる人財を育成する必要があります。

(委員会の目的)

- ①子どもたちの論理的思考力や想像力を養う機会の創出
- ②若者にまちづくりに対しての興味関心の向上と参画する機会の創出

(事業内容)

■※事業名を記載 (5月例会 兼 子供向け事業 )

(事業) 公2

1) 実施に至る背景：

現代社会において論理的思考力と問題解決能力の育成が求められていますが、我が市では都市部と比較して、能力開発の機会が少ないのが現状です。また、そのような能力を養う為には受動的ではなく主体的に学ぶ姿勢が必要があり、自ら進んで学びたいと思える機会の提供が必要と考えます。

2) 目的：

対外：子供たちが将来的に幅広く活躍する為に、論理的思考力と問題解決能力の向上を目的とします。  
 対内：いわきJCメンバーが子供たちの論理的思考力を高める事が重要であると理解する事を目的とします。

3) 事業内容：

小学4年生から6年生を対象とした、e-sports大会の事業を行います。

4) 実施期間： 5月18日 (日)

5) 予算： 1,200,000円内まち未来創造支援事業補助金800,000円

6) 目標値： 参加人数200名 並びに参加後にアンケートで発想力や柔軟な対応力、チームワークやコミュニケーションが養われたと80%以上  
 JCメンバーへのアンケートで、自発的な能力開発の重要性を認識したとの回答が90%以上

7) 得られる効果：

子どもたちがeスポーツを通じて、論理的思考力と問題解決能力を身につけることで、今後の子どもたちの将来の活躍の可能性の拡大へと繋がります。  
 さらに大人たちが自発的な能力開発の重要性を理解することで、子どもたちへの機会提供の増加に繋がります。

8) 実施する際のパートナー：いわき市、いわき市教育委員会、いわき市民、市内小学校、PTA連絡協議会

■高校生によるいわき市長選公開討論会

(事業) 公2

1) 実施に至る背景：

いわき市長選挙が開催されるにあたり、候補者のビジョンや政策について市民の関心を高める必要があります。各候補者の政策を市民に対して示す機会を創り、かつこれから選挙権を持つ若い世代、特に高校生の、将来の市政の歩む方向を見極める積極的な姿勢を広く知ってもらうことで市民全体の政治参画意識を向上させるべく、本事業の計画に至りました。

2) 目的：

対外：若者のまちづくりに対する興味関心を深め、積極的な政治参加の姿勢を身につけてもらうことを目標とします  
 対内：いわきJCメンバーが幅広い年代の政治参画が重要であると理解する事を目的とします。

3) 事業内容：

いわき市内の高校へ事前に市長選候補者への質問募集を行います。合わせて公開討論会運営等に携わる学生学生を募集し、質問事項を組み立て公開討論会の運営を行います。

募集の広報については各高校へチラシを配布およびSNSを用いた告知をし、参加校・質問内容を募ります。

討論会開催の広報についてはポスターの掲示やWEBでの広報を駆使し広く周知を行います。

開催は市内の施設での参集とし、開催の後アーカイブの配信を行います。

4) 実施期間： 8月中旬 (告示日 8月末予定)

5) 予算： 800,000円(内 明日をひらく人づくり事業補助金400,000円)

6) 目標値： 討論会参加人数30名 アーカイブ動画再生数3,000回  
 討論会参加者へのアンケートで「政治参画への意識が高まった」という回答が90%以上  
 JC会員へのアンケートで「幅広い年代の政治参画への重要性を理解した」という回答が90%以上

7) 得られる効果：

これから選挙権を得る高校生が討論会に参加することで、自身の故郷のまちづくりおよびこれからの政治参画についての関心が深まり、積極的な政治参画の意識が高まります。また若い世代の積極的な政治参画の姿勢を広く広報することで、市民全体の政治参画への興味関心を深めるきっかけとなります。

8) 実施する際のパートナー：いわき市、いわき市高校生、いわき市選挙管理委員会、いわき市民、福島県教育委員会、PTA連絡協議会、各種メディア



委員会名：総務委員会

担当副理事長名：大和田 勝史

委員長名：庄司 雄太

副委員長名：佐藤 亮介

副委員長名：吉田 大将

(委員会の設置背景)

2025年度も我々が運動を推進するために、多様な会議や事業が行われます。いわき青年会議所が、運動を展開し、会員が動きやすい組織であり続けるためには、業務の効率化や透明性の向上を図り、円滑な運営を行い組織力を強化する委員会を設置する必要があります。

(委員会の目的)

円滑な組織運営を行いながら、いわき青年会議所の組織力を高めると共に、誰もが参加しやすく組織の運営状況を把握できる組織体制の確立を目的とします。

(事業内容)

■ (事業名 公益社団法人いわき青年会議所2025年度新年会計画)

(事業) 他1

1) 実施に至る背景：

青年会議所運動を行うためには、様々な関係諸団体と関係を深め、連携をとることで、より良いものとなり、かつ円滑に行うことができます。これからの組織運営をより強固にするため関係諸団体と関係を深める必要があります。

2) 目的：

対外：我々の考えをしるし、関係諸団体との交流を図ることで、互いに協力できる組織となることを目的とします。

対内：本年度の方針を理解し、協力してこれからの運動に積極的に参加する機運を高める事業とすることを目的とします。

3) 事業内容：

いわき青年会議所の新体制をお披露目し、関係諸団体に理解と協力を得られる新年会の運営を行います。

4) 実施期間： 2025年2月1日(土)

5) 予算： 350,000円

6) 目標値： 対内アンケートより「本年度の青年会議所活動や運動に対して率先して行動できるようになった」：80%以上  
対外ヒアリングより「組織体制や運動方針が理解でき協力できるようになった」：ヒアリング回答者の80%以上

7) 得られる効果：

対内：関係諸団体との交流を図り、より良い関係を深めることで、連携の取れた青年会議所運動に繋がります。

対外：2025年度の組織体制と運動方針を発信し、関係諸団体に青年会議所運動の理解を深めて頂くことで、円滑な連携をとることが可能となります。

8) 実施する際のパートナー：

いわき青年会議所OB会、市内各地OB会、福島ブロック協議会、関係諸団体

■ (事業名 公益社団法人いわき青年会議所2025年度4月例会会計画)

(事業) 他2

1) 実施に至る背景：

青年会議所はどのような団体なのか、所属していると何ができるのかを理解している会員が少ない現状では有効な運動を起こすことが困難です。いわき青年会議所の運動を次世代に繋げていくためにも、会員の青年会議所への理解を深める事業を行う必要があります。

2) 目的：

対外：なし

対内：青年会議所への理解を深め、目的志向をもって運動を行うことのできる人財になるを目的とします。

3) 事業内容：VMV(青年会議所セミナー)もしくは他LOMの経験豊富な会員をお招きしセミナーを行う。

4) 実施期間：

5) 予算： 50,000円

6) 目標値： 対内アンケートより「青年会議所への理解が深まり、青年会議所運動の大切さを理解でき目的をもって参加できるようになった」：80%以上

7) 得られる効果：

対内：会員が運動の大切さや、青年会議所が自らを高められる魅力のある組織であることを学び、社会により良い変化をもたらす人財の育成に繋がります。

8) 実施する際のパートナー：

公益社団法人日本青年会議所又は他LOM青年会議所

## 1) 実施に至る背景：

いわき青年会議所ではLOMでの活動や、出向先での活動を通じて、会員が成長できる環境が整っています。しかし、近年では出向経験している会員も減少傾向にあり、成長できる環境を生かしきれていない現状があります。いわき青年会議所の運動を継続するには出向への理解を深め、より多くの会員が出向し、学びや気づきを得る機会を増やす必要があります。

## 2) 目的：

対外：なし

対内：福島ブロック大会に参加し、その経験をLOMの事業に活かす例会とすることを目的とします。

## 3) 事業内容：

公益財団法人いわき青年会議所 7月例会

福島ブロック大会in浪江への移動例会

## 4) 実施期間：

5) 予算： 10,000円

6) 目標値： 対内アンケートより「福島ブロックでLOM外の会員の活躍を見てこれからの青年会議所運動に積極的に参加できるようになった」：80%以上

## 7) 得られる効果：

ブロック出向者が他LOMの会員と連携し活動する姿を見ることで、出向や青年会議所運動への理解を深めることで、これからの青年会議所運動、青年会議所活動への意欲を高めることに繋がります。

## 8) 実施する際のパートナー：

なし

## 1) 実施に至る背景：

いわき青年会議所は、先輩方のたゆまぬ努力と功績の積み重ねにより、今現在まで引き継がれてきました。先輩方への感謝の意を表するとともに、新たな門出を盛大にお祝いします。

## 2) 目的：

対現役会員：卒業生に対して、これまでいわき青年会議所のために尽力頂いたことへの感謝の意を表し、新たな門出をお祝いするとともに、卒業生からこれまでの青年会議所運動の経験を学び、青年会議所への想いを受取ることで、新たな組織運営を担う決意を醸成することを目的とします。

対卒業生：いわき青年会議所の会員としての最後の瞬間まで楽しんでもらい、心置きなく卒業していただくことを目的とします。

## 3) 事業内容：

卒業式及び感謝ナイトの運営

## 4) 実施期間：

5) 予算： 600,000円

6) 目標値： 出席した卒業生の満足度100%

対内アンケート「卒業生の気概を引き継ぎ、次年度に向け、意識を高めることができましたか。」に対し、「はい」100%

## 7) 得られる効果：

40歳で卒業するということを目の当たりにすることで、青年会議所の持つ機会の価値を確認し、今後の青年会議所運動の参加につながります。

## 8) 実施する際のパートナー：

いわき青年会議所OB会

委員会名：拡大推進アカデミー特別室

担当副理事長名：大和田 勝史

室長名：里見 法道

副委員長名：四家 凌一

(委員会の設置背景)

①メンバーの減少が続いていることから、我々のまちにJC運動で好循環をもたらすことが困難な状況にあります。今後もJC運動を展開していくためにも、JCの理念に共感する多くの同志を集め続けていく必要があります。

②毎年コンスタントに10人以上の新入会員が入会してきますが、退会やスリープ会員が絶えない現状があります。その原因はJCという団体がそもそも何をやる団体なのか分からず続けてしまう点にあると考え、新入会員を中心に学びを得る場を創る必要があります。

(委員会の目的)

①いわきJCの理念を叶えるために、JCの考え方や理念に共感した同志を集めることを目的とします。

②多くの学びから、積極的に行動を起こすことのできる即戦力の育成。

(事業内容)

■ (事業名 公益社団法人いわき青年会議所2025年度会員拡大計画)

(事業) なし

1) 実施に至る背景：

会員の減少が続いている現状から、組織運営が困難になっています。理念を達成するためにも、まちの青年に我々の考えを理解してもらうことが課題であり、同志を集める運動が必要です。

2) 目的：

対内：JCが提供できる機会の重要性を伝え、志を同じくする同志が集う組織を創ることを目的とします。

3) 事業内容：

理念を広げるために、会員の拡大を行います。従来の手法に加え、JCに関わらずビジネスにも生きてくる研修や、多方面で活躍なさっている先輩や本会会員と出会う機会を創出します。そこから集まりやすい環境、我々の運動を広げやすい状況を創ることで新たな会員の入会につなげます。多様性が求められる現在だからこそ、立ち振る舞いを、研修を通じ改め、女性会員の多数の入会を目指します。会員全員拡大のため定期的に各委員会へ出向き、入会候補者の生の情報を獲得し入会につなげます。本年度は、各種団体の交流会への参加、いわきJCのセミナー開催の広報を行い、会員の拡大へ繋がります。

4) 実施期間： 2025年1月～9月

5) 予算： 0円

6) 目標値：

新規入会者：30名

入会候補者：40名以上

三役：新規入会者2人/年

その他理事：新規入会者1人/年

各委員会：入会候補者10名/年

期末会員の中で女性会員の割合20%

新入会員例会参加率：80%以上

7) 得られる効果：志を同じくする同志が集うことで、大きな運動を行うことができるようになり、理念の達成に近づきます。

8) 実施する際のパートナー：いわきJCOB・OG 各関係団体 いわき市民 日本青年会議所：組織グループ 福島ブロック協議会：組織連携推進会議

■ (事業名 公益社団法人いわき青年会議所2025年度11月例会開催計画)

(事業) 他2

1) 実施に至る背景：

次年度に向け、組織力の強化には新入会員の活躍は不可欠です。しかし、新入会員や歴の浅い会員は既存会員との人間関係が希薄であるため、積極的にJC活動に参加しづらい傾向があります。会員同士の関係性を深めるため、交流の場を自ら創出する必要があります。

2) 目的：

対外：歴の長い会員だけではなく新入会員にも活躍の場があることを外部にアピールし入会につなげること。

対内：仲間のことをより深掘りし知ることができ、翌年以降の活動に向けて大きな力とすること。

3) 事業内容：新入会員で例会内容を含め、企画し、運営してもらいます。

4) 実施期間： 2025年11月

5) 予算： 50,000円

6) 目標値：

対外：例会後の対外向けアンケート結果、「JCについて興味が湧き、今後入会を考えてみたいと思えましたか」の問いに対し「はい」80%

対内：新入会員参加率：100% 既存会員参加率：80%

7) 得られる効果：

この例会で得た成功体験や準備段階で高まった結束力は、今後のJC活動へさらに主体的に参加することを可能とし、同期の絆を強くします。また、既存会員にとっても、



新たな人間関係が生まれることで結束力が高まり、組織力を向上させることができます。

8) 実施する際のパートナー：無し

1) 実施に至る背景：入会を避ける青年が多だけでなく、入会をしても出席をしないまま退会につながる問題の原因は、JCについて知る機会がないことがあげられます。そのため、JCについて学びの場を創る必要があります。

2) 目的：

対外：JCについて知る機会が増えることで、認知度を高めるだけでなく、入会につなげること。

対内：JCについて理解を高め、積極的に行動を起こすことのできる即戦力となること。

3) 事業内容：JCプログラム、JCプロトコル、活躍されている会員と出会う座談会（本会より派遣）、協賛金の集め方、事業広報のやり方など、積極的に行動を起こすことのできる人財となるための研修を行います。また、新入会員候補者に参加してもらうことで入会に近づけます。女性が集まりやすい会場、環境を作ることで多くの女性会員の入会に繋がります。

4) 実施期間： 1月～12月

5) 予算： 0円

6) 目標値： 対外：各事業後の対外向けアンケート結果、「JCについて興味が湧き、今後入会を考えてみたいと思えましたか」の問いに対し「はい」80%  
対内：10月事業後の対内アンケート結果、「次年度以降積極的に行動を起こすことのできるようになりましたか」の問いに対し「はい」100%

7) 得られる効果：JCを理解し、行動を起こすことのできる人財が生まれ、次年度以降の組織力の向上につながります。また、JCに対する理解が高まり、退会、スリープ会員の減少につながります。

8) 実施する際のパートナー：公益社団法人日本青年会議所

委員会名：広報室

専務理事：鈴木孝始

専務室長：松本進

広報室長：門馬円香

ver1.1

(室設置背景)

- ①いわきJCは地域社会の発展と次世代リーダーの育成を使命とし運動・活動を行っていますが、理念や活動に対して、市民の皆様から十分な共感を得られていません。いわきJCの理念・活動を積極的に発信し、その成果を地域にしっかりと伝える必要があります。
- ②経験の少ない会員の割合が増加したことにより、JCの理念に対する理解の低下が懸念されます。会員がいわきJCに対して誇りや愛着を持ち、理念に共感してもらえるよう、会員に広く伝える必要があります。

(室運営方針)

- ①いわきJCを広報し、全メンバーで青年会議所運動を推進していくことで共感される組織を作り、いわき市に対して一貫したブランドイメージを提供することを目的とします。
- ②JCの理念に対する理解を深めるため、委員会等の活動の様子を広く会員に伝え、会員一人ひとりがJC運動や活動を共感することで、組織としてのブランド力を強化することを目的とします。

(事業内容)

■公益社団法人いわき青年会議所2025年度広報推進計画 事業区分：なし

- 1) 実施に至る背景：  
われわれの運動は、地域社会との信頼関係の上に成り立っており、いわきJCの理念や活動が市民の皆様幅広く認識されていることが前提です。しかしながら、日々市民の皆様との懇談の中においても、いわきJCの活動実績への認知が進んでないことが読み取れます。要因のひとつが、戦略性が乏しく、片務的であり、低頻度な発信を続けたことによる情報発信力の未熟さにあります。  
「いわきJCとは、どのような団体で、どんな活動をし、どういった地域益をもたらしているのか」、それらをより戦略的で活発に展開していく必要があります。
- 2) 目的：  
いわきJCが地域社会からさらなる信頼を得るために、戦略性をもって発信しわれわれへの認知度に寄与することを目的とします。
- 3) 事業内容：
- 4) 実施期間： 2025年1月～2025年12月
- 5) 予算：0円
- 6) 目標値：  
  - ・公式ホームページ：事業活動ごとに記事更新
  - ・SNSの投稿数：週2回以上
  - ・SNSの新規登録者数（市民の皆様）：20%増（2024年10月27日現在 フォロワー数 Twitter 1,775人 Instagram845人 Facebook 1,840人）
  - ・SNSの会員登録数：100%
  - ・テレビ番組・新聞記事：事業活動ごとに報道依頼
  - ・ラジオ番組出演：対外事業前に出演
- 7) 得られる効果：  
市民の皆様からのいわきJCへの認知度が上がることで、信頼関係が向上し、われわれの運動展開への力となります。
- 8) 実施する際のパートナー： ラジオ番組（FMいわき）、新聞（福島民友、福島民報、いわき民報）、  
テレビ局（KFB福島放送、福島中央テレビ、FTV福島テレビ、TUFテレビユー福島）

■公益社団法人いわき青年会議所2025年度広報推進計画（ブランディングについて） 事業区分：なし

- 1) 実施に至る背景：  
現在、いわきJCは市民の皆様から身近に感じられていないという現状があります。その要因として、行政や関係諸団体とは交流があるものの、市民の皆様へのアプローチが不足していることが挙げられます。したがって、いわきJCと市民の皆様を結びつけるための架け橋が必要であると考えます。
- 2) 目的：  
いわきJCが魅力ある団体となるために、いわき市民の皆様とiwakiJCを繋ぐシンボルを創出することを目的とします。
- 3) 事業内容：  
市民の皆様から、「いわきJCと言えば、○○」と認識されるために、いわきJCのアイコンとなるキャラクターを作ります。  
公式HP、SNS等で積極的に使用し、配布するチラシ等にアイコンとして使い、いわきJCをより市民の皆様へ身近に感じてもらうようにします。
- 4) 実施期間： 2025年5月～2025年10月
- 5) 予算：キャラクター制作費用 100,000円
- 6) 目標値： 下半期の全事業で展開し、一般市民の皆様へヒアリングを行い、いわきJCの新しいキャラクターだと認知してもらうことを目標とします。  
ヒアリング件数30件以上
- 7) 得られる効果：  
いわき市民の皆様とiwakiJCを繋ぐシンボルができたことで、iwakiJCが魅力ある団体と認知され、支持されることに繋がります。
- 8) 実施する際のパートナー： いわき市

■2月例会 事業区分：他2

- 1) 実施に至る背景：  
いわきJCの広報は、情報発信の頻度が少ないという現状があります。この要因として、いわきJC内での情報発信に対する理解が乏しいことが挙げられます。そのため、メンバーが改めて、情報発信の重要性を認識し、理解を深めるための機会を創出することが必要であると考えます。
- 2) 目的：  
情報発信の重要性を理解し、積極性をもって広報を行う人材となることを目的とします。
- 3) 事業内容：  
情報発信について詳しい専門家から、情報発信の種類や方法について講演いただき、学びます。情報発信の種類や方法について学ぶだけでなく、なぜ情報発信が重要なのかについても学ぶことで、JC活動だけでなく、社業の広報活動にも活かすことができます。講師の方から、社業で情報発信を活かしていくポイントなども講演いただくことで、より学んだことを社業にも活かすことができます。
- 4) 実施期間： 2025年2月14日（金）
- 5) 予算：50,000円

6) 目標値： 会員参加80%以上。

アンケート回答で「情報発信について学ぶことができた」の回答100%と、「今後のJC運動の情報発信の重要性を認識した」の回答100%

7) 得られる効果：

情報発信の方法を学ぶことで、いわきJCの運動を積極的に発信できることに繋がります。積極的に発信できることで、いわき市民の皆様、地域の関係諸団体から共感を得ることに繋がります。また、JC以外の社業では、会社PRや採用活動などに活かすことができます。

8) 実施する際のパートナー： ロコいわき

委員会名：事務局・財政局

専務：鈴木 孝始

専務室長：松本 進

財政局長：中川 優寛

事務局長：柴田 真琴

(委員会の設置背景)

- ①全ての事業において、コンプライアンスを重視し、基盤である公益性や透明性のある財務運営を進めていく必要があります。
- ②近年では会員数の減少傾向が続いており、また、例会・事業における出席率も大きな向上がありませんでした。JCの運動・事業を継続させていくために、会員一人ひとりへ、まちづくりを行う団体としての意識を醸成し、JC運動・活動に積極的に参加してもらう必要があります。

(委員会の目的)

- ①法令に則った法人運営を行い、公益法人格を適切に維持しくために、公益法人としての心構えや知識を身につける機会を創出することを目的とします。
- ②様々な事業や支援活動に会員一人ひとりが積極的に参加できるような柔軟性を持ったL O Mの運営を進めていくことを目的とします。

(事業内容)

■適切な組織運営

(事業) なし

1) 実施に至る背景：

これからもいわきJCがいわき市民や会員に対して十分な活動を行うためには業務の効率化を図り、会員誰もが参加しやすい環境を創り、公益法人として開かれた透明性のある適切な組織の運営を行う必要があります。

2) 目的：

- ①法令及び規則に沿った会の運営と透明性のある財務運営を行い、適切な組織運営を継続することを目的とします。
- ②組織運営が円滑にできるように様々なツールを使用し、情報共有やコミュニケーションを効率化することを目的とします。

3) 事業内容：

- ①各種会議体での適切な運営を行い、事務局・財政局としては随時予算執行状況の確認を実施します。12月に議案書セミナー、理事セミナーを実施し、議案書の書き方やJCにおける理事の役割や意義を学びます。
- ②各種会議においてはオンライン会議ツール等を利活用し、多くの会員が出席できるよう準備します。

4) 実施期間： 2025年1月～2025年12月

5) 予算： 0円

6) 目標値：

7) 得られる効果：適切な組織運営を行うことで、地域からの信頼を得るとともに、会員の積極的なJC運動への参加が促され、会員の成長に繋がります。

8) 実施する際のパートナー：いわきJCOB

■公益社団法人いわき青年会議所2025年度6月例会計画

(事業) 他2

1) 実施に至る背景：いわきJCの例会・事業参加率は40%から50%で推移しており、原因については、一部「JCに魅力」を感じ切れていないといった意見も聞こえます。今後も少ない会員数でも、よりアクティブに運動を展開していくことが求められることを鑑み、多くのメンバーに「JCに魅力」を感じ取っていただく必要があり、本例会の計画に至りました。

2) 目的：

対内：いわきJCのさらなる運転展開と飛躍のため、メンバーの皆さまに「JCの魅力」を見だし、参加率の向上につなげることを目的とします。

3) 事業内容：会員交流を軸とした例会を開催し、会員がJCの魅力を実感できる内容を考えます。

4) 実施期間： 2025年6月20日(金)

5) 予算： 50,000円

6) 目標値： 対内アンケートで「本例会を通じ、「JCに魅力」を見いだすことができた」できた以上80%

7) 得られる効果：「JCの魅力」を見いだしてもらうことで参加率向上につなげ、組織力の向上によるわれわれの運動を展開する力が強まります。

8) 実施する際のパートナー：なし